

岩手日報 平成27年2月14日

検定で防災力アップ

県内中学初の団体受験

一関・大東中

一関市大東町の大東中（遠藤宗俊校長、生徒152人）の1年生45人は13日、同校で自然災害や防災の知識を身に付ける「ジュニア防災検定」を受験した。市大東支所教育文化課によると、県内中学校の団体受験は初めて。

同検定は一般財団法人防災検定協会（東京都千代田区）の主催。筆記のほか、防災を家庭で話し合いレポートにまとめる事前学習や自由研究で総合評価する。同校は大塚商会ハートフル基金を活用し受験。事前に地元消防署員によるセミナーも行い、知識取得に励んできた。

佐藤大人君は「初めて知ることも多かった。学んだことを生活に生かしたい」、菅原柊斗君は「いつまた大きな地震が発生するか分からない。しっかり備えたい」と防災力を高めていた。

担当する小菅かな江教諭は「事前課題などで緊急時の備えを確認できた。取り組みを今後の防災学習に役立てたい」と見据えた。